

組織名	彩の国さいたま人づくり広域連合
-----	-----------------

1 組織概要

所在地	埼玉県さいたま市北区土呂町 2-24-1
TEL	048-664-6685
FAX	048-664-6667
URL	http://www.hitozukuri.or.jp/
e-mail	jinzai03@hitozukuri.or.jp
設立	1999年5月14日
設置都市等	埼玉県及び埼玉県の全市町村(63市町村)
代表者	広域連合長 富岡 清

2 組織動向

(1)沿革		
設置経緯	<p>平成2年 市町村職員広域研修機関の設置について、市長会・町村会・県で検討開始</p> <p>平成5年 埼玉州市町村職員研修検討協議会が発足</p> <p>平成8年 「埼玉州市町村職員研修センター(仮称)基本構想(素案)」を策定</p> <p>平成10年 取組体制については広域連合が適当との方向性が出される</p> <p>平成11年 県及び県内全市町村の議会において、広域連合設立に関する議案を可決 自治大臣設立許可(5月14日) 業務開始(7月1日)</p>	
見直しの動向		
役割(2018年時点)	<p>①人材開発事業 ・政策研究の実施・支援 ・埼玉県職員及び埼玉県内市町村職員の研修</p> <p>②人材交流事業 ・民間企業等への職員派遣 ・市町村間の職員交流支援</p> <p>③人材確保事業 ・職員採用合同説明会の開催 ・市町村職員採用情報の共同発信等</p>	
(2) 組織体制		
設置形態(択一)	<input type="checkbox"/> 自治体の内部組織 <input type="checkbox"/> 常設の任意団体(提言等を行う会議体型の団体も含む) <input type="checkbox"/> 公益法人(財団法人・社団法人) <input type="checkbox"/> 大学の附置機関 <input checked="" type="checkbox"/> 広域連合 <input type="checkbox"/> その他(具体的に:)	
常勤職員数	29 人	
うち常勤研究員数	0 人	
非常勤研究員数	0 人 ※毎年度、県・市町村等から研究員を公募	
専門性確保に関する特徴(複数選択可)	<input type="checkbox"/> 専門的な知識を有した研究員の採用 <input checked="" type="checkbox"/> 外部有識者の活用(研究員として採用した者を除く) <input checked="" type="checkbox"/> 大学・非営利活動法人等と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 設置市の企画部署と連携した研究の実施 <input type="checkbox"/> 設置市の関係部署と連携した研究の実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に: 県・市町村・企業・NPO及び大学等の協働による「産民学官・政策課題共同研究」を行い、産民学官それぞれの主体が持つ人材や情報、ノウハウ等を活用、組み合わせ、地域課題の解決に真に役立つ政策提言を行っている。研究テーマについて専門性を持つ外部有識者を研究コーディネーターに迎えるとともに、研究員として県・市町村の関係職員や民間企業、大学、NPOなどが参加(無報酬)し、専門性を意識した研究を実施している。) <input type="checkbox"/> 特に行っていない	
庶務体制	当広域連合の政策研究担当(3人)が事務局として政策研究に係る事務を処理	
市民参加、外部連携	研究員として県・市町村の関係職員のほか民間企業、大学、NPOなどが参加(無報酬)し、専門性を意識した研究を実施している。	
(3)会計		
会計規模※人件費・間接費(オフィス賃借料、水道光熱費等)は含まない		
2018年度予算	8,114 千円	
2017年度決算	7,212 千円	
2016年度決算	6,364 千円	
自治体の内部組織以外の団体の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	その他(具体的に: 彩の国さいたま広域連合政策研究基金からの繰り入れ)
	2位	
	3位	
自治体の内部組織の場合の事業活動収入の主な内訳(多い順に選択)	順位	収入種別
	1位	
	2位	
	3位	
4位		

組織名	彩の国さいたま人づくり広域連合
-----	-----------------

3 活動動向

(1) 活動実績	
定期刊行物	<input type="radio"/> 政策課題共同研究報告書(年1回) <input type="radio"/> 政策情報誌「Think-ing」(年1回)
(2) 活動のマネジメント状況	
ア テーマ決定 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市からの要請 <input type="checkbox"/> 外部有識者等からの助言・示唆 <input type="checkbox"/> 貴団体・組織で、設置市の総合計画等に明記された重要課題から選択 <input checked="" type="checkbox"/> 貴団体・組織で自ら発案 <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に:構成団体(埼玉県及び県内全市町村)の各所属及び職員個人から、研究テーマを募集している。)
イ 情報発信 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市の議員や幹部職員に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の関係部署に、報告や提言を行う <input checked="" type="checkbox"/> 設置市の庁内の広範囲に、成果物を配布する <input checked="" type="checkbox"/> 報告会を実施する <input checked="" type="checkbox"/> 日常的活動を、HP・メールマガジン・ニューズレター等で周知する <input checked="" type="checkbox"/> その他(具体的に:①研究のスタートに当たり、オープニングセミナーを開催し、研究について広く周知をしている。②研究報告書を頒布しているほか、報告書の内容を当広域連合ホームページに掲載している。) <input type="checkbox"/> 特に行ってない
ウ 活動の評価とその反映 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 設置市の行政評価制度により評価を受けている <input type="checkbox"/> 運営委員会等、貴団体・組織の運営に関わる機関から評価を受けている <input type="checkbox"/> 外部有識者から評価を受けている <input checked="" type="checkbox"/> 報告会・アンケート等の機会を設けて、評価を受けている <input type="checkbox"/> その他(具体的に:) <input type="checkbox"/> 特にそういう機会はない

4 特記事項

研究員の業務分担	研究員同士の話し合いにより、分科会の所属や作業の分担などを決めている。
研究員の専門性育成の手立て	研究員は、次項のとおり公募等により決定しているため、毎年異なる。そこで、研究コーディネーターへの外部有識者の招聘や、研究会における専門家によるレクチャーの実施、関係課から助言を得られる機会の設定など、研究を進めるに当たり研究員が専門的な知見等に十分触れられるような環境を整えている。
研究員のキャリアパス等	研究員は、次のとおり公募等により決定している。 ・県及び市町村 県の各所属及び県内市町村に対して公募している。 ・企業・NPO・大学等 県との包括的連携協定締結企業をはじめ、成果発表会等に来場した企業等や政策研究に関心を持っている団体に参加を呼びかけている(研究参加は無報酬)。
その他	・県、市町村、企業、NPO及び大学等による「産民学官」協働の研究を行っている。

5 2018年度に実施した調査研究

調査研究名	調査研究の概要
埼玉型の公共空間利活用プロジェクト～地域活性化のための官民連携による社会実験～	埼玉の中でも異なる特性を持つ4地域を対象として基礎調査と社会実験を実施しながら「埼玉型」の公共空間利活用のあり方の研究を実施。本研究では埼玉の特徴は暮らしであり、「埼玉型」＝「暮らしの中の公共空間利活用」と位置付けた。利活用については①「埼玉型コミュニティへの寄与」、「地元感の醸成」、「日常との接続」の3つの視点が含まれているか。②日常化へとつながる取組であるか。上記2つの要素が必要であること。さらに、「担い手」と「使い手」の双方に引き続きアプローチしていくことを提言。 http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H30/H30houkokusyo_honnun.pdf
埼玉の地域資源の再発見・利活用による愛県心醸成プロジェクト～埼玉版ツーリズムの構築～	全国でも郷土愛、愛県心が低いといわれる埼玉県において、ツーリズムを通じて、愛県心を醸成することを目的に研究を実施。本研究では、埼玉県のとおりツーリズムとは他の地域から人を呼ぶ経済的なツーリズムではなく、県民が県内に興味をもち、愛着や自信を持ってもらうためのツーリズムと位置付けた。「知る・体験する」ことにより地域に愛着を持ち、愛県心が醸成されることを踏まえ、①知るきっかけとしてのツアーの有効性。②地域のガイドやキーパーソンという人財の重要性。③行政の役割について提言。 http://www.hitozukuri.or.jp/jinzai/seisaku/80kenkyu/01/H30/H30houkokusyo_honnun.pdf